

# 美術館・展覧会・美術史は なんのためにあるのか



2024年 3月2日(土) 14:00~16:40 (開場 13:30)

茨城大学図書館ライブラリーホール(定員 80名)とオンライン(Teams ウェビナー開催)

報告と司会： 藤原 貞朗 (吉田秀和賞受賞者、茨城大学五浦美術文化研究所・副所長)  
ディスカッサント： 尾崎 信一郎 (鳥取県立美術館・館長予定者)  
(50音順) 竹久 侑 (水戸芸術館現代美術センター芸術監督)  
林 洋子 (兵庫県立美術館・館長)

【参加費】 無料  
【参加方法】 対面参加

定員80名、先着順、定員を超えた場合は入場をお断りする場合がございます。  
オンライン参加

右記 QR コード、もしくは下記の URL から参加申し込みをお願いいたします。  
<https://events.teams.microsoft.com/event/7c47fc4c-46db-4aef-bac4-bb8d9a2f31d1@1eb20313-c289-413b-8ab9-146f41fff73b>

▼オンライン参加申し込み▼



参加申し込みの際に記入・入力された個人情報は、本イベント開催目的以外には使用しません。

岡倉覚三(天心)は東京美術学校の初めての日本美術史講義において、「美術史は未来の美術のためにある」と語りました。学芸員や美術史研究者は、過去と現在の美術、そして、それを取り囲む社会と歴史にかかわっています。日常的な事務的業務に追われる世知辛い現代社会のなかで、こうした本質について考える時間はあまりありませんが、このシンポジウムではあえて、こんな時代だからこそ、本質的なこと、理想的なことについて話し合えればと思います。

この度、水戸芸術館が主催する第33回吉田秀和賞を受賞した『共和国の美術 フランス美術史編纂と保守/学芸員の時代』(藤原貞朗著、名古屋大学出版会)は、1920~30年代のフランスにおいて、フランスの美術の歴史がどのように形成されたのかを論じています。フランスの美術館学芸員たちは、マネや印象派、モダンアートの展覧会や展示実践を通じて、自国の近代美術の再解釈と再評価を行い、フランス市民のみならず、世界中の人々が求める美術の歴史を作り上げました。自分の国のナショナルな美術史を作るためには、近代美術や同時代の美術を評価するだけでなく、それ以前の中世やルネサンスの芸術、さらには、イタリアやドイツなど隣国の美術と美術史との関係を考慮せねばなりません。複雑な国際関係も見据えううえで、自国の美術史を形成したのです。過去の歴史化にあたっては、同時代の美術との「連続性」をどのように構想するのかという問題、また、ナショナルな美術の歴史化にあたっては、中央と地方の格差の問題も浮上しました。

翻って、今日の「わたしたち」が求める美術、美術展、美術館、そして、美術史とはいかなるものなのでしょうか？理想のアート、展覧会、美術史が生み出されているのでしょうか。100年前のフランスの学芸員たちがみずからの自画像として創り上げた美術史や展覧会を批判的に振り返りながら、現在のわたしたちの必要とするアート、未来のための理想の展覧会や美術館、そして、美術史について、自由にディスカッションしてみたいと思います。



**藤原 貞朗** (ふじはら・ただお)  
茨城大学人文社会科学部教授  
・五浦美術文化研究所副所長

大阪大学文学研究科修了。フランス、リヨン第2大学留学後、大阪大学文学研究科助手を経て、現職。美術史学と考古学の学問史および歴史編纂の研究を専門とする。主要著書に『オリエンタリストの憂鬱 フランス東洋学者とアンコール遺跡の考古学』(サントリー学芸賞、渋沢クロード賞受賞)、『山下清と昭和の美術 裸の大将の神話を越えて』(服部正との共著)、『共和国の美術 フランス美術史編纂と保守/学芸員の時代』など。訳書にガンポーニ著『潜在的イメージ モダンアートの曖昧性と不確定性』、タルディ著『塹壕の戦争』、『汚れた戦争』などがある。



**尾崎 信一郎** (おさき・しんいちろう)  
鳥取県立美術館整備局美術振興監  
鳥取県立美術館館長予定者

大阪大学文学研究科修了。兵庫県立近代美術館、国立国際美術館、京都国立近代美術館に勤務した後、郷里に戻り、2021年に鳥取県立博物館館長。2025年に開館する鳥取県立美術館館長予定者。主要著書に『絵画論を超えて』、『戦後日本の抽象美術』、共著として『美術批評と戦後美術』ほか多数。企画した主な展覧会として「重カ―戦後美術の座標軸」(国立国際美術館)、「Out Of Actions - Between Performance and the Object」(ロサンゼルス現代美術館ほか)、「痕跡―戦後美術における身体と思考」(京都国立近代美術館)、「日本におけるキュビズム」(鳥取県立博物館ほか)など多数。



**竹久 侑** (たけひさ・ゆう)  
水戸芸術館現代美術センター  
芸術監督

キュレーター。ロンドン大学ゴールドスミス修士課程クリエイティブキュレーティング修了。展覧会およびプロジェクトの企画と実践を通して、地域社会におけるアートセンターの役割を探求し、芸術と社会の交わる領域を耕す。主な企画展に「アートセンターをひらく 2023―地域をあそぶ」、『3.11 とアーティスト:10年目の想像』、作家個展として「中崎透 フィクション・トラベラー」、デイヴィッド・シュリグリー「ルーズ・ユア・マインダーようこそダークなせかいへ」、「田中功起 共にいることの可能性、その試み」、「大友良英 アンサンブルズ 2010―共振」など。「水と土の芸術祭」2012 ディレクター。



**林 洋子** (はやし・ようこ)  
兵庫県立美術館・館長

美術史研究者、キュレーター。東京大学大学院修士課程修了。パリ第1大学にて博士号取得。東京都現代美術館学芸員、京都造形芸術大学教員、文化庁芸術文化調査官を経て、現職。手がけた主な展覧会に、「DOMANI・明日展」(国立新美術館ほか)、「没後50年 藤田嗣治展」(東京都美術館、パリ日本文化会館ほか)、「森村泰昌 空装美術館」(東京都現代美術館ほか)。主要著書に『藤田嗣治 作品をひらく』(サントリー学芸賞、渋沢クロード賞ルイ・ヴィトン ジャパン特別賞ほか受賞)、『藤田嗣治 手しごとの家』、『藤田嗣治 本のしごと』、『藤田嗣治 手紙の森へ』など。

## 【お問い合わせ先】

茨城大学 社会連携課 (平日 9:00~17:00)

電話番号 : 029-228-8425

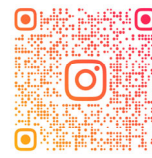
メール : 6kakudo@ml.ibaraki.ac.jp

ホームページ : <https://rokkakudo.izura.ibaraki.ac.jp/>

【茨城大学五浦美術文化研究所】情報はこちらからご覧ください。



ホームページ



Instagram

IBADAI\_IZURA\_ROKKAKUDO